

令和元年度 第1回磐田市総合教育会議 会議録

日 時 : 令和元年8月29日(木) 午後3時30分～午後5時00分

会 場 : 磐田市役所 西庁舎3階 特別会議室

出席者 : 市長、教育長、鈴木好美委員、青島美子委員、秋元富敏委員、杉本憲司委員
(出席者6名)

事務局 : 企画部長、教育部長、秘書政策課長、教育総務課長、秘書政策課政策・行革推進グループ長、教育総務課総務グループ長、学校教育課教育支援グループ事務局

傍聴者 : 0名

【会議次第】

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. 協 議 事 項
 - (1) いじめ・虐待・不登校の実態について
 - (2) その他
4. 閉 会

[協議の主な内容]

(1) いじめ・虐待・不登校の実態について

市長 本日のテーマは、「いじめ・不登校・虐待の実態について」です。委員の皆様より忌憚のないご意見を伺いたい。最初に、事務局から、実態について説明をお願いします。

事務局 「いじめ」について、本市の認知件数は、平成30年度は29年度に比べ数が増えている。これは、いじめの学校での認知への取り組みというか、いじめを積極的に認知して、対応をしていくという姿勢の現れではないかと肯定的にとらえている。

認知件数のうち、いじめが解消したと判断したものが、小学校、中学校ともに高い率になっている。いじめについては、簡単に解消ということで良しにはせず、引き続き見守りをしていくことが大切だと言われているので、学校では、丁寧に見守りを続けている。

いじめについては、文科省の調査で8種類に分類しており、一番多いのは、「ひやかし・からかい・悪口等の文句を言われる」という分類で、小学校・中学校ともに多くなっている。

「不登校」について、本市の不登校児童生徒数の推移は、小学校・中学校あわせて、ここ数年200人超で推移している。30年度については、残念ながら今までで一番多い数字になってしまった。全児童・全生徒に対する不登校の子の割合(出現率)は、県や国と比べると、小学校では、全国よりも高く、県よりは若干低い値で、中学校では、全国や県よりも高い状況が続いている。ただ、県も全国も、不登校については、増える傾向にある。

本市の学年別の不登校児童・生徒数については、学年が上がるにつれて、不登校の数が増えていく状況にある。一度休みが長期に続くと、その後もそのまま続いてしまう子が多い。不登校の要因については、最近、「家庭に係る状況」が非常に多く挙がってくるようになった。「いじめを除く友人関係をめぐる問題」、中学生になると「学業の不振」も不登校の要因として多く挙がってきている。ただ、色々な要因が絡み合っていることが多いので、要因を1つに特定をするのは難しい。

理由別長期欠席者数について、実は、不登校は、長期欠席者という中に含まれる1分類に過ぎない。30日以上欠席した子供を長期欠席者としているが、不登校の子もいれば、病気の子もいる。30年度の長期欠席者は300名を超えている。

不登校への対策については3段階あり、①未然防止は、不登校になる前の対応、②初期対応は、少し兆しが見えてきた時の対応、③自立支援は、不登校に入ってしまった子たちへの支援を考えながら対策をしている。

30年度に、「不登校対策リーフレット～つながりや関わりを大切に～」を作成して、市内の全教職員に配布をした。これを研修会等で活用して、取り組みの浸透を図っている。

自立支援では、教育支援センター「あすなろ」とも連携している。30年度は、あすなろには56名が入級し、うち44名が学校へ一部復帰、もしくは完全復帰した。

虐待について、児童相談所が、昨年度、一時保護したというケースは、13件あつ

た。最近では、子供に直接危害を与えられているわけではないが、親同士の喧嘩や暴力を子どもが見てしまうことによって心理的な影響を受けてしまう心理的虐待（面前DV）で、警察へ通報が入ったものを、警察から児童相談所へ通告が行くことが多くなっている。

虐待へは、学校、学校教育課、こども・若者相談センター、児童相談所、警察などが連携して、対応にあたっている。

児童虐待が疑われた場合は、今年度できた「こども・若者相談センター」や児童相談所と話し合い、「命の緊急性」を基に判断し、それによって、児童相談所への通告又はこども・若者相談センターへ相談し、対応を考えていくことにした。

本年5月に、文科省から学校・教育委員会向けに「虐待対応の手引き」が発出された。これも全学校に配布し、これに沿った対応をしている。説明は以上。

市長 今の説明の中で、質問があればお願いしたい。

委員 不登校理由の「その他」というのは、どういう理由なのか？
また、外国人学校に通っている子は含まれているのか？

事務局 「その他」というのは、家庭の教育に対する理解がなく授業を受けさせたくないとか、外国人の方で一時帰国中であるとか、その他様々な理由で不登校に分類できないものを「その他」としている。
なお、外国人学校は含まれておらず、本市の小中学校に在籍している子供のみが対象である。

委員 児童相談所に保護された案件は、分類でいうと何になるのか？

事務局 身体的虐待とネグレクトがあると思うが、身体的虐待の方が多い。子供が「もう帰りたくない。」「家に、今日はいたくない。」と話すようであれば、児童相談所が一時保護するというケースが多い。
また、今戻すのは危険性が高いと判断した場合も、児童相談所で一時保護している。保護者に対して指導をして様子を見たりして、その結果、家庭に戻していくために、一時保護するというケースもある。

委員 先日、テレビで児童福祉法における要保護の児童対策の中で、「通告48時間ルール」を紹介していた。その中で、児童相談所や警察などは、基本的には動くということではないか？

事務局 児童相談所は、通告を受けた場合、48時間以内に家庭に行き、必ず状況を目視・確認しなければならないことになっている。そこで状況を把握し、一時保護をしなければならない場合は一時保護をし、家庭に対して指導する場合については指導するという動きで動いている。

- 委員 一時保護の期間と、要保護児童を家庭へ帰した後の対応について、教えていただきたい。
- 事務局 一時保護の期間は、3日～1週間で、1週間になることが多いと思う。ただ、重たいケースでは、2～3週間になることもある。その間に、家庭に戻すのか、養護施設へ行くのか、何が適当なのかを、保護者や本人たちと話をしながら決定することになる。基本的には、保護中に本人の行動観察をしつつ、保護者とも話をし、保護者に指導するなどして、家庭に返す約束をきちっと決めてから、家庭に戻している。家庭に戻した後も、児童相談所のケースワーカーが、定期的に家庭へ足を運び、様子を確認している。
- 市長 一時保護した後の追跡は、児童相談所がやるものなのか？
- 事務局 児童相談所もやるが、要保護対策協議会で、こども・若者相談センターや学校教育課も一緒に入りながら、見守りを続けていくことになる。学校に来ているようであれば、学校で見守りを続けていくことになる。
- 市長 一旦保護された子供は、家庭に戻った後は、普通に生活できているという認識でいいのか？
- 事務局 一時保護された場合、家庭の方も反省するので、家庭に戻って普通に生活ができている子が多いと思う。
- 市長 逆に言うと、反省をしない親もいるのか？
- 事務局 反省をしない親もいる。子供が「うちに帰りたくない。」、親も「うちでは面倒を見れない。」という場合は、児童相談所で判断して、家庭ではないところで生活をする場合もある。
- 教育長 そういう親向けの教育プログラム「ペアレント・トレーニング」があるので、計画的に職員も一緒に行く。親が苦勞されている場合もあるので、寄り添うことも必要である。
- 事務局 基本的には、子供が安全に安心して過ごせる場所というものを考えていくことになる。戻る場所、帰る場所が、家庭なのか、それとも、家庭ではない親族のところなのか、その子のケースごとに考えられている。
- 委員 事件は、一旦保護して帰してから起きることが多い。だから、要保護児童の家庭へ帰した後の対応は、すごく大事だと思う。

- 委員 いじめの認知件数が増加したと聞いたが、地域性とか学年の傾向はあるのか？もう少し細かい分析があれば教えてほしい。
- 事務局 本人が嫌だと感じれば、「いじめ」として捉えなければならない。学校が子供たちの訴えをきちっと捉えているから認知件数は増加したのだと思う。
学年別にデータは取っているが、特段、学年の傾向はない。また、地域性も特にない。ただ、小さな学校からは、いじめはそんなに多くは出てこない。
- 委員 いじめの態様のうち、「悪口・冷やか・からかい」などとかの軽いものが増えているのは分かるが、「ひどくぶつかられる・たたかれる・蹴られる」とか「持ち物を隠される・壊される」とか、程度のひどいものも増えている。状態が悪くなっている気がするが、どのように感じているか？
- 事務局 友達に軽く叩かれたことや、友達が勝手に物を持って行き使ってしまったというの、嫌な思いをしたということで、いじめとして計上している部分もある。そのため、程度のひどいものが増えてきた感じはない。
- 委員 不登校の要因について、その傾向に変化はあるのか？
- 事務局 国も県も同じような傾向にある。家庭に関わる状況、学力・学業の不振、いじめを除く友人関係が不登校の要因として多い。
- 委員 「いじめを除く友人関係をめぐる問題」とは、具体的にどういう事例なのか？
- 事務局 友達と仲たがいをしてしまい、学校に行きづらくなったといったケースになる。
- 委員 中学校の不登校出現率について、本市は、全国や県と比較して高い値であるが、その理由は何か？何か思い当たる節はあるか？
- 事務局 その理由については、非常に難しい。中学1年生になると、環境や人間関係、勉強、部活など、いろいろなことの影響が変わるが、それが原因かどうかははっきりとは分からない。
- 教育長 その辺の分析は難しい。先生方は、小中の繋ぎを丁寧にやってくれているが、文化の違いもあるかもしれない。磐田市の子供たちは、素直でものすごい従順な面がある。他の市町と比べても、大変落ち着いた雰囲気を持ってきたと改めて思ったが、その反面、「たくましさに欠ける」ところがあると思う。
- 委員 磐田市の教育というのは、しっかりとやってくれていると捉えていたので、不登校率が県や全国よりも高いことは無いと思っていた。

教育長 不登校の数については、継続してこのような高止まりの感じで来ている。

委員 中学校の生徒指導の先生からは、「生徒指導の案件はとても減っている。けんかしているとか、タバコを吸っているとか、不良みたいな子はすごく減っているが、その代わり不登校が増えている。」と聞いている。

事務局 現在、非行系な問題行動ってというのは、皆無に等しくほぼゼロである。しかし、不登校や発達の問題に係る相談については、増えているように思う。

教育長 全国調査の中学生の学力調査テストについて、静岡県も全国の中でトップクラスだが、県内でも本市は上位である。だが、僕は、磐田の子にはたくましさがないと思う。

委員 本市の学校は、何となく落ち着いている学校というか、そういうイメージがものすごくある。

市長 いじめや不登校の定義を、全国一律にするのは構わないが、先生方もそれにしたがってやらざるを得ないところも分かったうえで言うと、分類できないようなことが生活だと思ふ。人間関係を、分類、分類って、やり過ぎていいのかなと思ふ。例えば、不登校の要因はいくつかあるが、いくつも私自身が経験している。転校生でいじめにあったとか、嫌でしたし、つらかった。だけど、それで学校に行けなくなることはなかった。それでも、なぜ行っていたんだらう？と思ひ返すと、頼りになる先生がいたとか、この友人がいたからだと思ふ。時代錯誤みたいな話をするつもりはないが、今だって、居ても良かりそうだと思ふ。家庭事情だって、今も昔も一律ではない。データはデータでいいが、本当にこの中で心配だと思ふ児童や生徒を、我々が把握する方が必要なことではないか。

本当に心配なケースは、どの程度把握されているのか？

事務局 不登校において、一番心配なのは、その子の顔が見えない場合である。家に入ってしまったいて、生きていいのか死んでいるのか分からなくなるのが一番怖い。そういったことがないように、家庭訪問などで必ず本人の顔を見てもらうよう学校へ依頼し、毎月報告をもらっている。現在、顔が見れていない子はいない。

市長 全員、把握できているということか？

事務局 はい。不登校の子の中で、状況が分からない子は一人もいない。もし、家庭と連絡が取れないような場合は、こども・若者相談センターと一緒に訪問することもある。

子供たちの感じ方はよく分からないが、先生方と子供との関わりの中で、「あの先生がいるから学校に行こう。」と、こういった所はすごく大事にしていかなければならないと思ふ。たとえ不登校になってしまったとしても、先生とその子供の中で関わりが強けれ

ば、その子たちの予後は良いとアドバイザーの大学教授は話していた。

委員 教室には入れないけど、他なら居れるということで、別室で教育支援員の方たちがなるべく勉強を遅れないように見てくださっていると聞いたが、保健室の先生以外に、そういう支援員の方がいることによって、戻れるようになるとか、そういうのは感じているのか？

事務局 感じている。中学校には心の教室相談員を置いている。教室に入るのは勇気がいるけれども、別室であれば行けるという子供たちはいるので、それで学校に登校している子もいる。

委員 保健室や別室であっても、30日以上休まなければ不登校ではないということか？

事務局 不登校ではない。出席になっている。保健室に保健の先生がいるから行くという子も中にはいる。

教育長 先日、市長と一緒に、ある中学校の保健室を見に行った。

市長 人数が多いからではなく、自分が思っていた景色と実際に見た景色とが違ったので驚いた。おそらく、昭和の時代だったら、保健室じゃなくて教室で学んでいたであろうと思わせる子たちもいたと思う。

教育長 その中に、午前中ずっと寝ている子がいたと思う。あの子は、家庭環境の影響で、家に帰ると、親に徹底的にやられてしまうから、午前中保健室でずっと寝るっていうのを、保健の先生が実によく見ていてくれた。その甲斐もあり、高校に進学した後、現在は、もう完全に独り立ちしている。

市長 家庭環境がそうだから、ずっと寝ているっていうのは、僕は二重丸で良いと思っている。要は、自分の居心地の悪いところを避けて、居心地のいいところで一生懸命勉強をやっている子たちが、あんなにいるのかということに大変驚いた。ただ、教室よりも別室の方が勉強をしやすいから行っていると思える子たちも、随分いるのではないかと感じた。

先生方も、子供から「別室なら勉強できる。」と言われたら。今の時代「教室でやれ！」と強制的にできない時代だから、分類やカウントは難しいと改めて思った。

教育長 教室でやれそうだなと思って教室の近くまで行くと、急に教室に入れなくなり、廊下に机を置いて授業を受けている子もいる。

市長 今はデータで質疑をしているが、協議というか、今までやってなかったことで、こうしたらどうかといった意見も求めようと思っている。児童・生徒の意思に沿ってあげること

は非常に良いことだが、その環境はずっとは続かない。義務教育が終わった後は、ひとまず自由な世界になるものの、その時に自分の求める居場所空間をずっと作ってあげるっていう社会ではいけないと感じている。どこかで踏ん張るところが必要なのではないか。

ある小学校に行った際、発達障害の子を持つ親御さんとの懇談の時間があった。そのとき、「そんなこと当たり前じゃないですか！」って言うところ、親御さんも分かって言っていることが分かった。ところが、先生方の世界では、そういう発言はしてはいけないと思っているから、ひとまず聞いてしまう。そうすると、言っている方は、意見を尊重してくれると、どんどん自分の世界に入っていき人が多いように思う。先生方にもう少し自由に発言をさせてあげたいと思っている。

担任の先生も学校の先生も、色々なタイプの人がいる。それを一律の基準で、やるのは簡単である。しかし、そこは人間と人間なので、様々な色合いがあったっていいと思う。臨機応変にやらなければならないところまでマニュアル化してしまうところに怖さを感じる。

不登校の子でも、先生が変わると簡単に回復したという事例もあるのではないか。

事務局

実際に、学年や担任が変わると、ガラッと変わったっていう子は多い。

去年不登校で、今年度、学校に復帰した子が約3割いる。でも、逆に不登校になる子も同じくらいいるので、全体数はあまり変わらない。

市長

市の職員にも同じようなことが言える。職場環境で、人の情があり明るく元気にやっているところは、仕事上はつらいことや苦しいことがあっても踏ん張れるが、みんな冷たい雰囲気、暗い雰囲気、上司がそういった配慮において得意ではないところには、職員が来なくなるケースが出てきている。

気分転換できる明るい上司集団を作りたいなと、今回改めて思った。家庭環境が複雑になっている社会なので、見える化がなかなか難しい。そうすると、先生方への依存度というか「先生、お願いします。」という場合が多くなるが、その分、先生がストレスをためないように、見える化を図ってやってほしいと思う。

教育長

やはり、先生の本当の姿勢とか、キリっとしたところがあるかないかとか、その人の基本的な考え方によると思う。

委員

叱ったときに、子供は、その先生の目の奥を理解している。

市長

子供は見抜くと思う。

委員

今、先生が怒っている、叱っていることの本気度や真剣さは、子どもは読み取る事が出来る。

だから、先生には個性・特性があってもいいと思う。けれど、先生は身体ごとぶつかっていき、子どもを受け止める、そういう中で先ほど市長が言った、

「抛り所」というか「最後の砦」というのを学校の中に1つ欲しい。子供にとっては、どこかそういうところが欲しいのではないかと思う。

教育長 先ほど、委員から児童相談所が一時保護したケースがあつて、帰ってきた後の対応はどうなるのか？という質問があつたが、実は、児童相談所で一時預かりの必要性があるものの、入れない場合が結構ある。

事務局 一時保護所が満員で、空きがないので入れない、保護できないというケースがあるのは事実。

教育長 でも、本当は少しでもいいから、保護させたいというときもある。それと、児童相談所から帰ってきた子の対応について、市に任せるといふ部分も出てきて困っている。

市長 今、教育委員さんに、ぜひ頭の隅に置いておいていただきたいのは、国は、国民・県民・市民から苦情を受けてはいけないということで、指示・命令は出してくる。例えば、先ほど話しがあつたように、通報があつた場合、児童相談所は48時間以内に必ず対応しなければならない。しかし、指示・命令を出してくる人たちが、果たして児童相談所の実態を知っているのかと僕は思う。48時間以内に行けというのは簡単。もちろん、やらなければならないところは頑張る。しかし、オーバーフローしている実態を、分かっているのかというSOSを、もう少し見える化して、僕らも勇気をもって上部団体へ伝えて行く必要があるように思う。伝えて行かないと、国は自分の役割を果たしたと思ってしまう。48時間以内に行けと指示を出しているのに、行かないとは何事だと。国は指示を出したと言えれば済むが、現場はそうはいかない。そうは言っても、実際に現場を抱えてたら、何とかしなければならないということで、児童相談所も市町村も、今、大わらわになっているのが実態である。

市でやれることはやろうと思っているが、本市は、おかげさまで、まだまだ課題はあるものの、みんなの協力でやろうとしているが、マンパワーも含めて、やろうとしたって、できないところがいっぱいあるのも事実。

逆に言うと、オーバーフローしたところを市でどんどんやってしまうと、国や県は、市でやって当たり前の、悪い意味であてにしてくる傾向がある。

何とか最低限のところは支えてあげたいが、やりすぎると、市でやって当たり前の悪い意味であてにされてしまう。その間合いについても悩みの1つである。

委員 児童相談所に保護された子の健康診断を、うちの病院でやっているが、あらためて児童相談所の方は、とても大変だなと思った。必要以上の情報は聞かないし聞けないので、詳しくは分からないが、保険証を持ってくる子もいれば無い子もいる。親が連れてくる子もいる。学校から直接来る方もいる。本当に色々な方がいる。親も子も別れるという決断をしたうえで連れてくるのではないか。

児童相談所の方は、対象の子供1人につき1人っていうわけではないし、預かった子をどうするか、次にどこへ行くのか、家に帰すのかといった難しい判断をしなければ

ならず、とても大変だと察する。

市 長

そう簡単に、こういう問題が解決するとは思わないが、今、部局単位でグループ長以上と面談している。その中で、一旦、部下を持った限りは、愛情を持ってやってくれと伝えている。例えば、毎日9時にならないと帰れない部下がいたとしたら、愛情があれば、「家庭大丈夫か」といった言葉の1つでも出てきて、なんとかしなければという行動に出るはずだが、それが当たり前の光景に思ってしまうと、対策も何も出ないことになる。

どれだけ職員が分かっているか分からないが、愛情をもってやっていけば、絶対底辺で支えられる。愛情があつて厳しく言ったり、愛情をもって可愛がったりすることも分かる。

今まで懇談した中で、こういうことをやっている、又は、やっていかなかったら、やってみたらどう？といったご意見も遠慮なくいただきたいと思う。

とにかく、きっかけと出会いが、最低のところ、ポキッと折れないで済むと思っているので。

委 員

同じ人が同じことを言っても、受け側のタイミングの問題もある。社会に出たら、必ず嫌な人とも関わらなければいけないだろうし、嫌な人から逃げる術も知らなくてはいけない。学校に行っていれば、大なり小なり嫌な思いをして、それをどう逃げるか？とか、どう対処するか？ということを経験して、大人になって社会に出ていくが、学校に行かなかつたら、嫌な人とは会わなくて済む。というよりも、会わないで成長してしまったら、社会に出ても、嫌な人から逃げて当たり前、嫌なことがあつたら引きこもるしかないってことになってしまうので、本当は学校に行つて、学校とか、あすなろみたいな所でもいいので、必ず家から出てほしいなと思う。

先ほど、磐田市の子はたくましくないと聞いた。どうやったらたくましくするか？たくましくなるのか？

市 長

非常に良い哲学的な質問である。

委 員

学校に来ている子は、友達同士とか、先生とかいろいろなぶつかりがあつて、たくましくなっていくと思う。

教育長

8歳までの小さい頃にたくましさ育てるには、非認知能力といって、母親との愛情、自分の愛されている経験をもって、その愛情のモトを作ればいい。それが出来るのが、中学3年生ぐらい。だから、学校へ行かなくても、本来は中学3年生ぐらいまでは、その愛情のモトを作ることができる。

たくましさっていうのは一体何なのか？と、僕もいろいろと毎日考えてはいる。それは、人によって違うが、やはり愛情だと思う。関わりをもって愛情を持った子は、どんなことがあつても、もう1回、そこへ何回も帰ってくる。それでまた、再出発して行くということができる。そういうのを見てあげたいと思う。

最近、怖いのは、子へのお母さんの愛情が完全になくなって、預かってもらっても家に帰ってくると、お母さんが虐待してしまうという事例がある。

市 長

僕も色々な人との出会いで今があることを考えると、こういうおじさん・おばさんがいたんだとか、こういう先生もいてくれたんだとかという、この出会いを作ってやりたいと思っている。そうでないと、今の子どもたちは、僕たちの子供の頃よりも幼さがなく、頭でっかちになっているところもあるし、臆病だしといったこともあるので。そんなことも意識しながら頑張りたい。